

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

[本書について](#)

[Dell Systems Build and Update Utility の概要](#)

[Dell Systems Build and Update Utility を使い始める前に](#)

[起動メニュー](#)

[サーバーオペレーティングシステムインストール](#)

[ファームウェアアップデート](#)

[アップデートユーティリティの作成](#)

[ハードウェア設定スクリプトツール](#)

[Content Manager](#)

[用語集](#)

「メモ」と「注意」について

 **メモ:** 「メモ」は、コンピュータの活用に役立つ重要な情報を示しています。

 **注意:** 「注意」は、ハードウェアの損傷またはデータ損失の可能性を示し、問題の回避策を説明しています。

本書の情報は、予告なく変更される場合があります。
© 2007 Dell Inc. All rights reserved.

Dell Inc. の書面による許可のない文書の複製は、一切禁じられています。

本書で使用される商標について: Dell, DELL, ログ, PowerEdge, および OpenManage は、Dell Inc. の商標です。Microsoft, Windows, Windows Server は、Microsoft Corporation のアメリカ合衆国とその他の国における商標または登録商標です。VMware は VMware, Inc. の商標、ESX Server は VMware Inc. の登録商標です。SUSE は、Novell, Inc. のアメリカ合衆国とその他の国における登録商標です。Red Hat と Red Hat Enterprise Linux は、Red Hat, Inc. の登録商標です。

本文中、その他の商標や商号が、それを所有する事業体またはその事業体の製品に言及する目的で使用されている場合があります。Dell Inc. は、同社が所有しない商標および商号の所有権について一切の権利を放棄します。

2007 年 12 月

[目次ページに戻る](#)

本書について

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

- [本書の対象読者](#)
- [本書の活用法](#)
- [本書の使用法](#)

始める前に、「[Dell Systems Build and Update Utility の概要](#)」と「[Dell Systems Build and Update Utility を使い始める前に](#)」を一読することをお勧めします。

本書の対象読者

本書は、組織内で Dell™ システムの導入とアップデートを担当するシステム管理者を対象としています。

既存のお客様は、既に以下の Dell 製品を使用している可能性があります。

- 1 Dell OpenManage™ Server Assistant
- 1 Dell OpenManage Server Update Utility
- 1 Dell OpenManage Deployment Toolkit

その場合は、Server Assistant に取って代わり、Server Update Utility と Deployment Toolkit の機能を提供する Dell Systems Build and Update Utility に合わせて、導入やアップデートのプロセスを再構築する必要があります。

本書の活用法

本書は Dell Systems Build and Update Utility について紹介し、Dell システムの導入およびアップデート手順をスムーズに実行するために製品を有効活用する方法を説明しています。

- 1 この製品を初めて使用する場合は、Dell Systems Build and Update Utility の使用前、使用中、および使用後のシステム設定を本書でご案内します。
- 1 上記の製品を既に使用している場合は、Dell Systems Build and Update Utility におけるその製品の位置づけを理解できるほか、旧製品の利点を引き続き利用するためのシステム設定にも役立ちます。また、Dell Systems Build and Update Utility の統合 / 内蔵機能を使用して、既存の導入 / アップデートプロセスを劇的に変更することなくメリットをもたらす上でも便利です。

本書では、Dell Systems Build and Update Utility を効果的かつ効率的に使用するための Dell システムの設定と、このユーティリティを使用する場面へののみ焦点を当てています。

本書の使用法

本書では、Dell Systems Build and Update Utility の各種モジュールの概要を提供し、これらを使用する場面を想定して説明します。ただし、すべての場面設定や可能性を網羅しているわけではありません。Dell Systems Build and Update Utility が提供する Dell 製品の機能に関する具体的な情報については、「[必要になるその他の Dell 文書](#)」を参照してください。

導入、再導入、アップデートする Dell システムによっては、以下の文書を参照することをお勧めします。

表 1-1. 本書の構成

トピック	Dell システム	Dell PowerEdge SC システム
本書、本書の対象読者、目的、構成に関する情報	「 本書について 」	「 本書について 」
Dell Systems Build and Update Utility の概要およびその機能	「 Dell Systems Build and Update Utility の概要 」	「 Dell Systems Build and Update Utility の概要 」
Dell Systems Build and Update Utility を使い始める前に必要な環境と、ユーティリティの使用中に必要になるその他の情報の入手先。	「 Dell Systems Build and Update Utility を使い始める前に 」	「 Dell Systems Build and Update Utility を使い始める前に 」
Dell Systems Build and Update Utility のエントリポイントに関する重要情報	「 起動メニュー 」	「 起動メニュー 」
サーバーオペレーティングシステムインストールモジュールに関する重要情報	「 サーバーオペレーティングシステムインストール 」	「 サーバーオペレーティングシステムインストール 」
ファームウェアアップデートモジュールに関する重要情報	「 ファームウェアアップデート 」	該当なし
アップデートユーティリティの作成モジュールに関する重要情報	「 アップデートユーティリティの作成 」	該当なし
ハードウェア設定スクリプトツールに関する重要情報。	「 ハードウェア設定スクリプトツール 」	該当なし
Content Manager ツールに関する重要情報	「 Content Manager 」	「 Content Manager 」

以上から、本書の役割と必要な情報に簡単にアクセスする方法を理解していただけたと思います。Dell Systems Build and Update Utility とその機能の概要については、「[Dell Systems Build and Update Utility の概要](#)」を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Dell™ Systems Build and Update Utility の概要

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

- [Dell Systems Build and Update Utility の特徴](#)
- [Dell Systems Build and Update Utility の機能](#)

この項では、Dell™ Systems Build and Update Utility の概要を提供します。Dell システムのアップデートと導入の際に Dell Systems Build and Update Utility が提供する機能についてわかりやすく説明しています。

Dell OpenManage™ 製品の既存のユーザーは、「[Dell Systems Build and Update Utility の特徴](#)」を参照してください。

初めてのユーザーは、「[Dell Systems Build and Update Utility の機能](#)」を参照してください。

Dell Systems Build and Update Utility の特徴

[表 2-1](#) は、Dell Systems Build and Update Utility に置き換えられたか、その機能が Dell Systems Build and Update Utility で使用可能になった Dell OpenManage 製品を示したものです。

表 2-1. Dell Systems Build and Update Utility の特徴

以前使用されていた機能で、	Dell Systems Build and Update Utility で
Dell OpenManage Server Assistant として使用可能なもの	サーバーオペレーティングシステムのインストール
Dell OpenManage Server Update Utility	<ul style="list-style-type: none">1. ファームウェアアップデート1. アップデートユーティリティの作成
Dell OpenManage Deployment Toolkit	ハードウェア設定スクリプトツール

Dell Systems Build and Update Utility の機能

[表 2-2](#) は、Dell システムを導入 / アップデートする Dell Systems Build and Update Utility の機能を示したものです。

表 2-2. Dell Systems Build and Update Utility の機能

操作	アクセス先	対象
システムで Dell Systems Build and Update Utility を実行する。	" 起動メニュー "	Dell システム (PowerEdge™ SC システムを含む)
オペレーティングシステムをシステムにインストールする (1 対 1)。	" サーバーオペレーティングシステムインストール "	Dell システム (PowerEdge SC システムを含む)
プレオペレーティングシステム環境でシステムファームウェア (ベースボード管理コントローラ [BMC]、Dell Remote Access Controller [DRAC]、個別ディスクの冗長アレイ [RAID]) および BIOS をアップデートする。	" ファームウェアアップデート "	Dell システム (PowerEdge SC システムを除く)
システムファームウェアをアップデートし、オペレーティングシステムをインストールする。	<ul style="list-style-type: none">1. "ファームウェアアップデート"2. "サーバーオペレーティングシステムインストール"	<ul style="list-style-type: none">1. Dell システム (PowerEdge SC システムを除く)2. Dell システム (PowerEdge SC システムを含む)
Server Update Utility をカスタマイズし、これを使って Dell システムを 1 対 1 でアップデートする (システムにオペレーティングシステムが必要)。	" アップデートユーティリティの作成 "	Dell システム (PowerEdge SC システムを除く)
CD または DVD 上のカスタマイズされたリポジトリを使ってシステムを 1 対 1 でアップデートする。	" アップデートユーティリティの作成 "	Dell システム (PowerEdge SC システムを除く)
複数のシステムを導入する (複数のシステムでシステムのファームウェアをアップデートし、オペレーティングシステムをインストールする)。	<ul style="list-style-type: none">1. "ファームウェアアップデート"2. "サーバーオペレーティングシステムインストール"	<ul style="list-style-type: none">1. Dell システム (PowerEdge SC システムを除く)2. Dell システム (PowerEdge SC システムを含む)
複数のシステムでプレオペレーティング環境でファームウェアおよび BIOS をアップデートする。	" ファームウェアアップデート "	Dell システム (PowerEdge SC システムを除く)
複数のシステムを導入する (ハードウェアを設定する)。	" ハードウェア設定スクリプトツール "	Dell システム (PowerEdge SC システムを除く)
最新の Server Update Utility ISO イメージをデルのサイト ftp.dell.com からダウンロードする。	" Content Manager "	Dell システム (PowerEdge SC システムを含む)

メモ: Content Manager は、対応する Microsoft

		Windows および Linux オペレーティングシステムで実行します。
『Dell Server Updates DVD』またはデルのサイト ftp.dell.com を利用してリポジトリをカスタム作成する。	"Content Manager"	Dell システム (PowerEdge SC システムを含む) メモ: Content Manager は、対応する Microsoft Windows および Linux オペレーティングシステムで実行します。
ローカルのリポジトリやカスタマイズされたリポジトリを ftp.dell.com で Dell オンラインリポジトリと比較し、最新アップデートを調べる。	"Content Manager"	Dell システム (PowerEdge SC システムを含む) メモ: Content Manager は、対応する Microsoft Windows および Linux オペレーティングシステムで実行します。

以上で、Dell Systems Build and Update Utility の概要とその機能について理解していただけだと思います。管理している環境で Dell Systems Build and Update Utility を使い始める前に必要な情報については、「[Dell Systems Build and Update Utility を使い始める前に](#)」をお読みください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Dell™ Systems Build and Update Utility を使い始める前に

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

- [前提条件と必要条件](#)
- [対応オペレーティングシステム](#)
- [対応システム](#)
- [必要になるその他の Dell 文書](#)
- [テクニカルサポートの利用方法](#)

この項では、Dell™ Systems Build and Update Utility を使い始める前に必要な条件や、ユーティリティ使用中に必要なその他の情報の入手先について説明します。

前提条件と必要条件

Dell システムには以下の環境が必要です。

- 1 最低メモリ容量 512 MB
- 1 CD ドライブまたは DVD ドライブ

メモ:『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』には Dell System Build and Update Utility バージョン 1.0.3 が収録されています。お使いのシステムに DVD ドライブがない場合は、この DVD の /root フォルダにある Dell System Build and Update Utility の ISO イメージを使用して CD を作成してください。ただし、このイメージはバージョン 1.0 です。x6xx あるいは x7xx の Dell システムや Windows Server 2008 のオペレーティングシステムに対応するために、Dell システムや Windows サーバー Dell System Build and Update Utility のバージョン 1.0.3 が必要な場合は、ISO イメージを support.dell.com のデルサポートサイトからダウンロードすることができます。

[表 3-1](#) は、Dell Systems Build and Update Utility の特定のモジュールの前提条件や必要条件を示したものです。

表 3-1. 前提条件と必要条件

モジュール	前提条件と必要条件
サーバーオペレーティングシステムインストーラ	<ul style="list-style-type: none">1 オペレーティングシステム CD/DVD1 『Dell Systems Management Tool and Documentation DVD』 (Dell OpenManage™ System Administrator をインストールする場合) これは Dell PowerEdge™ SC システムには該当しません。1 個別ディスクの冗長アレイ(RAID)についての基礎知識。
ファームウェアアップデート	<ul style="list-style-type: none">1 DVD ドライブ1 『Dell Server Updates DVD』 または <ul style="list-style-type: none">1 Server Update Utility コンテンツとのネットワーク共有1 ネットワークファイルシステム(NFS)または Microsoft® Windows® 共有の設定に関する知識。
アップデートユーティリティの作成	<ul style="list-style-type: none">1 DVD ドライブ1 『Dell Server Updates DVD』 または <ul style="list-style-type: none">1 Server Update Utility コンテンツとのネットワーク共有1 ネットワークファイルシステム(NFS)または Microsoft Windows 共有の設定に関する知識。1 カスタマイズされたリポジトリを保存するネットワーク共有または USB キー。
ハードウェア設定スクリプトツール	<ul style="list-style-type: none">1 BIOS、RAID、ベースボード管理コントローラ(BMC)、Dell Remote Access Controller(DRAC)についての基礎知識。1 .ini ファイルを保存するネットワーク共有または USB キー。1 NFS または Windows 共有の設定に関する知識。

対応オペレーティングシステム

Dell Systems Build and Update Utility に対応するオペレーティングシステムの一覧は、root フォルダの readme.txt または『Dell システムソフトウェアサポートマトリックス』(デルのサポートウェブサイト support.dell.com で入手可能)または『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』を参照してください。

対応システム

このバージョンの Dell Systems Build and Update Utility に対応している Dell システムの一覧は、root フォルダの readme.txt または『Dell システムソフトウェアサポートマトリックス』(デルのサポートウェブサイト support.dell.com で入手可能)を参照してください。

必要になるその他の Dell 文書

本書および Dell Systems Build and Update Utility のオンラインヘルプ以外に、特定の Dell Systems Build and Update Utility モジュールや Dell OpenManage 製品の詳細を知るために以下の文書が必要になる場合があります。これらのマニュアルはデルサポートサイト support.dell.com または『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』からご利用いただけます。

- 1 『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』は、対応する Windows、Red Hat® Enterprise Linux® Server、SUSE® Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで Server Administrator の無人インストールを実行する際の追加情報を提供しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator 互換性ガイド』は、対応する Windows、Red Hat Enterprise Linux Server、SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のさまざまなハードウェアプラットフォーム(またはシステム)で Server Administrator をインストールして操作するための互換性情報を提供しています。
- 1 『Dell Remote Access Controller 4 ユーザーズガイド』は、Dell RACADM コマンドラインユーティリティを使用して Remote Access Controller(DRAC)4 を設定する方法の詳細を説明しています。
- 1 『Dell Remote Access Controller 5 ファームウェアユーザーズガイド』は、RACADM コマンドラインユーティリティを使用して DRAC 5 を設定する方法の詳細を説明しています。
- 1 『Dell Chassis Management Controller ユーザーズガイド』は、Dell システムを含むシャーシの全モジュールを管理するコントローラの使用法に関する詳細を説明しています。
- 1 『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』は、管理システムおよび管理下システムにおける Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC)のインストール、設定、メンテナンスに関する情報を提供しています。
- 1 『Dell Remote Access Controller/Modular Chassis ユーザーズガイド』は、Dell Remote Access Controller/Modular Chassis(DRAC/MC)のインストール、設定、メンテナンスに関する情報を提供しています。
- 1 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』は、RACADM コマンドラインユーティリティの使用法に関する詳細を説明しています。
- 1 『Dell ベースボード管理コントローラユーティリティユーザーズガイド』は、BMC から BMC 管理ユーティリティを使用してシステムを管理するための管理下システムの設定について説明しています。
- 1 『Dell Update Packages ユーザーズガイド』は、システムアップデート戦略の一環としての Dell Update Packages の取得および使用に関する情報を提供しています。
- 1 『Dell OpenManage Deployment Toolkit ユーザーズガイド』は、Dell 提供の Embedded Linux(ELI)環境またはカスタマイズした Embedded Linux(ELI)環境で Linux DUP を実行する方法について、必要な依存関係も含めて説明しています。
- 1 『Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』は、システム機能を設定するコマンドラインユーティリティに関する情報を提供しています。
- 1 『Server Update Utility ユーザーズガイド』は、システムのアップデートを検出して適用する方法について説明しています。
- 1 『Dell システムソフトウェアサポートマトリックス』は、各種 Dell システム、これらのシステムに対応するオペレーティングシステム、これらのシステムにインストール可能な Dell OpenManage コンポーネントに関する情報を提供しています。

テクニカルサポートの利用方法

本書で説明されている手順で不明な点がある場合や、製品が期待どおりに実行されない場合は、ヘルプツールが役立ちます。これらのヘルプツールの詳細については、システムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』の「困ったときは」を参照してください。

また、「Dell Enterprise Training and Certification サービス」もご利用いただけます。詳細については、www.dell.com/training を参照してください。このサービスは、一部の地域ではご利用いただけない場合があります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

起動メニュー

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

これが Dell™ Systems Build and Update Utility のエントリポイントになります。

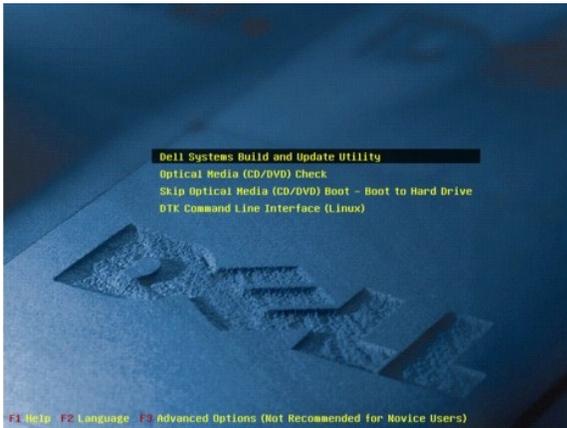
起動メニューにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. システムドライブに『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』を挿入してください。
2. システムを再起動します。

起動メニュー画面が表示されます。

[図 4-1](#) は、起動メニュー画面を示したものです。

図 4-1. 起動メニュー画面



[表 4-1](#) は、この画面で使用可能なオプションとその説明を示したものです。

表 4-1. 起動メニューオプション

起動メニューオプション	機能
Dell Systems Build and Update Utility	Dell Systems Build and Update Utility ホーム 画面に移動します。
光メディア(CD/DVD)のチェック	挿入した『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』にエラーがないことを確認します。
光メディア(CD/DVD)の起動をスキップ - ハードドライブから起動	システムのハードドライブから起動できます。
DTK コマンドラインインタフェース(Linux)	Deployment Tool Kit(DTK)コマンドラインインタフェース(Linux 環境のシステムのみ)に移動します。 メモ: このオプションは、Dell PowerEdge SC システムでは使用できません。
F1 ヘルプ	ナビゲーションヘルプに移動します。
F2 言語	言語を選択できます。
F3 詳細オプション	DTK コマンドラインインタフェース(Linux)オプションをアクティブにします。 メモ: このオプションは、Dell PowerEdge SC システムでは使用できません。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

サーバーオペレーティングシステムインストール

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

- [SOI へのアクセス方法](#)
- [その他必要な知識](#)

Dell™ Systems Build and Update Utility の **サーバーオペレーティングシステムインストール(SOI)**モジュールを使用すると、Dell システムに Dell 対応のオペレーティングシステムをインストールできます。また、SOI は、システムにインストールしたいオペレーティングシステムをマッピングし、必要なドライバをインストールします。さらに、Dell 対応のストレージコントローラを設定する簡単なインタフェースも装備しています。

SOI は次の操作に使用できます。

- 1 オペレーティングシステムをプレオペレーティングシステム環境の Dell システムに導入する。
- 1 システムを再構成する(既にオペレーティングシステムがインストールされているシステムに別のオペレーティングシステムをインストールする)。
- 1 ドライバを解凍してシステム上のディレクトリに保存する。

上記のすべての操作は 1 対 1 です。

SOI へのアクセス方法

1. Dell Systems Build and Update Utility ホーム ページで、**サーバー OS のインストール** をクリックします。
2. **SOI ホーム** 画面が表示されます。
3. ここから、わかりやすい簡単なインタフェース SOI を使用して、オペレーティングシステムをインストールし、Dell 対応ストレージコントローラを設定します。

 **メモ:** 特定の SOI 画面の詳細については、Dell Systems Build and Update Utility のオンラインヘルプを参照してください。

その他必要な知識

オペレーティングシステムをシステムにインストールする場合

- 1 システムにすでにオペレーティングシステムが入っている場合に(つまり、システムを「再構成」する場合)、SOI を使って別のオペレーティングシステムをインストールすると、既存のオペレーティングシステムは削除され、データも削除されます。
- 1 Microsoft® Windows Server® 2008 や VMware® ESX Server™ などのオペレーティングシステムでは、オペレーティングシステムのインストールメディアで提供されるネイティブの Graphical User Installation ツールが使用されます。Systems Build and Update Utility の設定画面の日付とタイムゾーンの設定は、Windows Server 2008 および ESX Server オペレーティングシステムには適用されません。

 **メモ:** Microsoft Windows Server 2008 は 2008 年の前半期に発売予定です。最新情報は次のサイトをご覧ください。
<http://www.microsoft.com/windowsserver2008/default.mspx>

コントローラを設定する場合

- 1 コントローラに仮想ディスクが設定されている状態で、SOI を使って 個別ディスクの冗長アレイ (RAID) コントローラをシステムに設定すると、既存の仮想ディスクは削除されます。
- 1 一部のオペレーティングシステムに対応していない RAID コントローラもあります。詳細については、root フォルダの `readme.text` を参照してください。
- 1 システムのストレージコントローラによっては、一部のオペレーティングシステムに対応していない場合があります。詳細については、root フォルダの `readme.txt` ファイルまたはオンラインヘルプを参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

ファームウェアアップデート

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

- [ファームウェアアップデートへのアクセス方法](#)
- [リポジトリとは？](#)
- [その他必要な知識](#)

Dell™ Systems Build and Update Utility の**ファームウェアアップデート** モジュールを使用すると、プリオペレーティングシステム環境で Dell システムの BIOS とファームウェアのバージョンをアップデートできます。このモジュールは以下を実行します。

- 1 システムのインベントリ(BIOS、ファームウェア、ドライバ)。
- 1 独自のリポジトリの選択(リポジトリの詳細については、「[リポジトリとは？](#)」を参照してください)。
- 1 比較レポートの生成(各コンポーネントについて、既存のシステムに現在インストールされているバージョンと、同じシステム用のリポジトリコンポーネントのバージョンの比較)。
- 1 システムコンポーネントのアップグレード。

ファームウェアアップデートへのアクセス方法

1. Dell Systems Build and Update Utility ホーム ページで、**ファームウェアアップデート** をクリックします。ファームウェアアップデートモジュールの**リポジトリ選択** 画面が表示されます。
2. アップデートファイルが存在するローカルまたはリモートのリポジトリの場所を指定します。
3. **ファームウェアアップデート** は、システムのインベントリ、比較レポートの生成、アップデートパッケージの適用をステップごとに実行します。

 **メモ:** 特定の **ファームウェアアップデート** 画面の詳細については、Dell Systems Build and Update Utility のオンラインヘルプを参照してください。

リポジトリとは？

リポジトリには、Dell システムのアップデートされた BIOS、ファームウェア、ドライバコンポーネントが含まれています。

リポジトリには次のものがあります。

- 1 **アップデートユーティリティの作成** モジュールまたはContent Manager モジュールで作成するカスタマイズされたりリポジトリ。
- 1 DVD からコピーするか、Content Manager モジュールから取得する『Dell Server Updates DVD』の内容

Content Manager の詳細については、「[Content Manager](#)」を参照してください。

その他必要な知識

必要条件エラーに遭遇した場合

- 1 アップデートプロセス中に必要条件エラーに遭遇した場合、修正方法については『Server Update Utility ユーザーズガイド』を参照してください。

ファームウェアアップデートにカスタムリポジトリを使用する場合

- 1 Dell Systems Build and Update Utility を使用してファームウェアアップデートにカスタムリポジトリを使用する場合は、Linux リポジトリが必要です。また、ファームウェアアップデートを実行するシステムのアップデートがリポジトリに含まれていることを確認する必要があります。

ファームウェアをダウングレードする場合

- 1 ファームウェアをダウングレードする場合は、**ファームウェアアップデート** モジュールを使用して行うことはできません。システムのファームウェアをダウングレードするには、『Dell Server Updates DVD』を使用します。

アップデートの一部が失敗した場合

- 1 アップデートの一部が失敗した場合は、システムを再起動し、最新のリポジトリを使用してファームウェアのアップデートを再試行します。詳細については、『Server Update Utility ユーザー

ズガイド』も参照してください。

USB キーをソースリポジトリとして使用する場合

- 1 ソースリポジトリとして USB キーを使用する場合は、プロンプトで USB キーを挿入します。

 **メモ:** システムに USB キーを挿入した状態でシステムを Systems Build and Update Utility に起動しないことをお勧めします。これは、Systems Build and Update Utility が、このユーティリティを起動する前にすでに挿入されていた USB キーを検出しない可能性があるためです。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

アップデートユーティリティの作成

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

- [アップデートユーティリティの作成へのアクセス方法](#)
- [ソースリポジトリとは？](#)
- [カスタマイズされたリポジトリの使用法](#)
- [その他必要な知識](#)

『Dell™ Server Updates DVD』には、Microsoft® Windows® および Linux オペレーティングシステム用のアップデートパッケージが含まれたリポジトリが収録されています。Dell Systems Build and Update Utility の **アップデートユーティリティの作成** モジュールでは、必要なシステムとオペレーティングだけを選択して、小さくコンパクトなアップデートユーティリティリポジトリをカスタム作成できます。このカスタムリポジトリには、Server Update Utility の機能が保持されています。

アップデートユーティリティの作成 モジュールを使用して、システムで 1 対 1 のアップデートを実行できます。

アップデートユーティリティの作成へのアクセス方法

1. Dell Systems Build and Update Utility Home ページで、**アップデートユーティリティの作成** をクリックします。
アップデートユーティリティの作成 モジュールの **ソースリポジトリの選択** 画面が表示されます。
2. ソースリポジトリが存在するローカルまたはリモートのリポジトリ場所を指定します。
3. ここから、**アップデートユーティリティの作成** モジュールがオペレーティングシステム、アップデートする Dell システム、カスタマイズされたアップデートユーティリティのインストール先についての入力を処理します。これらの詳細を指定すると、カスタマイズされたアップデートユーティリティが生成されます。これで、カスタマイズされたユーティリティを使用して、システムで 1 対 1 のアップデートを実行できます。

 **メモ:** 特定の **アップデートユーティリティの作成** 画面の詳細については、Dell Systems Build and Update Utility のオンラインヘルプを参照してください。

ソースリポジトリとは？

ソースリポジトリには、Dell システムのアップデートされた BIOS、ファームウェア、ドライバコンポーネントが含まれています。

ソースリポジトリは、『Dell Server Updates DVD』またはネットワーク共有にコピーした内容です。『Dell Server Updates DVD』は、**Content Manager** を使用してデルのウェブサイトからダウンロードすることもできます。

Content Manager の詳細については、「[Content Manager](#)」を参照してください。

 **メモ:** USB キーまたはネットワーク上の場所を使用して『Dell Server Updates DVD』のコピーを保存する場合は、すべてのフォルダを含むすべての内容を同じディレクトリ構成でコピーしてください。**アップデートユーティリティの作成** モジュールは、サブフォルダ内のソースを認識できません。

カスタマイズされたリポジトリの使用法

(USB キー上またはネットワーク共有上に)カスタマイズされたリポジトリを作成したら、アップデートするシステムからカスタマイズされたリポジトリにアクセスします。

たとえば、USB キーに保存されているカスタマイズされたリポジトリを使用するには、以下の手順を実行してください。

1. アップデートするシステムに USB キーを挿入します。
2. Windows Explorer を起動します。
3. USB キードライブを検索します。
4. カスタムリポジトリフォルダに移動します。
5. **suu.exe** をダブルクリックしてカスタマイズされたアップデートユーティリティを起動します。

アップデートユーティリティの詳細については、『Dell™ OpenManage™ Server Update Utility ユーザーズガイド』を参照してください。

その他必要な知識

複数のカスタムリポジトリを同じ場所に作成する場合

- 1 複数のカスタムリポジトリを同じ場所に作成する場合は、**アップデートユーティリティの作成** モジュールによって、作成した各リポジトリに 1 つずつ、複数のフォルダが作成されます。たとえば、CustomRepository、CustomRepository1、CustomRepository2 のように作成されます。

USB キーを作成先として使用する場合

- 1 USB キーをアップデートユーティリティの作成先として使用する場合は、プロンプトで USB キーを挿入します。

 **メモ:** システムに USB キーを挿入した状態でシステムを Systems Build and Update Utility に起動しないことをお勧めします。これは、Systems Build and Update Utility がこのユーティリティを起動する前に挿入した USB キーを検出しない可能性があるためです。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

ハードウェア設定スクリプトツール

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

- [ハードウェア設定スクリプトツールへのアクセス方法](#)
- [コマンドラインインタフェースへのアクセス方法](#)
- [ハードウェア設定についての質問](#)
- [システム導入で .ini ファイルを使用する方法](#)
- [その他必要な知識](#)

Dell™ Systems Build and Update Utility の **ハードウェア設定スクリプトツール** では、システムのベースボード管理コントローラ(BMC)、Dell Remote Access Controller(DRAC)、個別ディスクの冗長アレイ(RAID)、BIOS などの設定ができます。

システムの BMC、DRAC、RAID、BIOS の設定を保存したら、ツールを使用して .ini ファイルを生成し、これらの設定を複数のシステムに適用できます。

ハードウェア設定スクリプトツールへのアクセス方法

GUI にアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. Dell Systems Build and Update Utility Home ページで、**HW 設定スクリプトツール** をクリックします。
設定状態の概要 画面が表示されます。
2. このページから、特定のコンポーネントをクリックして BMC、DRAC、RAID、BIOS を設定できます。

 **メモ:** 特定の設定画面と、各画面でできる操作については、オンラインヘルプを参照してください。

コマンドラインインタフェースへのアクセス方法

コマンドラインインタフェースにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

起動メニューで、DTK **コマンドラインインタフェース(Linux)** を選択します。

ハードウェア設定についての質問

設定するコンポーネントの判別方法

[表 8-1](#) は、Dell システムによって設定可能なコンポーネントを示しています。

 **メモ:** これはあくまで参照用であり、完全なリストではありません。

 **メモ:** **設定状態の概要** 画面で **設定のエクスポート** をクリックし、.ini ファイルを生成してシステムのハードウェアコンポーネントを設定します。

表 8-1. Dell システムと設定可能なコンポーネント

Dell システム	タブをクリックして設定します。
x6xx-x7xx	<ul style="list-style-type: none">1 RAID1 DRAC III/DRAC 4 スクリプト→ 共通1 BIOS スクリプト→ 共通1 BIOS スクリプト→ x6xx-x7xx1 BIOS スクリプト→ 起動順序およびセキュリティ
x8xx	<ul style="list-style-type: none">1 RAID1 DRAC III/DRAC 4 スクリプト→ 共通1 DRAC III/DRAC 4 スクリプト→ DRAC 41 BMC/DRAC 5/IDRAC スクリプト→ 共通1 BMC/DRAC 5/IDRAC スクリプト→ アラート1 BMC/DRAC 5/IDRAC スクリプト→ フィルタ1 BMC/DRAC 5/IDRAC スクリプト→ ユーザー1 BIOS スクリプト→ 共通1 BIOS スクリプト→ x8xx1 BIOS スクリプト→ 起動シーケンスおよびセキュリティ

x9xx	<ul style="list-style-type: none"> 1 RAID 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ 共通 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ BMC(x9xx) 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ DRAC 5 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ アラート 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ フィルタ 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ ユーザー 1 BIOS スクリプト→ 共通 1 BIOS スクリプト→ x9xx 1 BIOS スクリプト→ 起動順序およびセキュリティ
xx0x	<ul style="list-style-type: none"> 1 RAID 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ 共通 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ iDRAC 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ アラート 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ フィルタ 1 BMC/DRAC 5/iDRAC スクリプト→ ユーザー 1 BIOS スクリプト→ 共通 1 BIOS スクリプト→ xx0x 1 BIOS スクリプト→ 起動順序およびセキュリティ

RAID コントローラに関する詳細の入手先

読み取りポリシー、書き込みポリシー、キャッシュポリシー、サポートされているストライプサイズの詳細については、『Dell OpenManage™ Deployment Toolkit コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』を参照してください。

システムで使用可能な BIOS 設定オプションの判別方法

システムで使用可能な BIOS 設定オプションを表示するには、起動メニュー画面に移動し、DTK コマンドラインインタフェース(Linux)を選択します。SYSCFG ツールを使用して、システムで使用可能なオプションのリストを表示します。

デバイスの起動順序を設定するとき、システムにないデバイスを選択するとどうなりますか？

設定ユーティリティは、指定した起動順序で起動デバイスを選択します。ただし、システムに存在しないデバイスを選択すると、ユーティリティはデバイスを無視し、残りの起動デバイスを選択して、指定した順序でデバイスを一覧にします。

システム導入で .ini ファイルを使用する方法

1 対 1 の場合 (.ini ファイルが USB キーにある場合)

1. 個々の画面でコンポーネントを設定し、設定を保存したら、**設定状態の概要** 画面で **設定のエクスポート** をクリックして .ini ファイルを生成します。
2. .ini ファイルを保存する USB キーを挿入します。
3. **設定スクリプト保存場所** で、スクリプトの保存先(この場合 USB キー)を選択し、**続行** をクリックします。
4. スクリプト生成が完了したら、**設定状態の概要** 画面が表示されます。
5. **再起動** をクリックします。
6. Dell Systems Build and Update Utility の **起動メニュー** から、DTK コマンドラインインタフェース(Linux)を選択します。
7. USB キーをマウントします。

Microsoft Windows オペレーティングシステム環境の場合、USB キードライブは自動的に検出されます(例:E)。

Linux オペレーティングシステム環境の場合、次のコマンドを使用して手動で USB キーをマウントします。

```
mount dev/sdg1 mnt/usb
```

(sdg1 はシステムが列挙した USB マスストレージデバイス)

8. 可変環境を .ini ファイルの場所にエクスポートします。

```
export DT_SHARE = /mnt/usb
```

9. /opt/dell/toolkit/bin フォルダに移動します。

10. DTK マスターファイルを実行します。

Microsoft Windows オペレーティングシステム環境の場合は、E:\dtkrunall.bat に移動します。

Linux オペレーティングシステム環境の場合は、次のコマンドを使用します。

```
sh/mnt/usb/dtkrunall.sh
```

このコマンドによってマスターファイルが起動し、保存した設定が[step 1](#)システムに適用されます。

1 対多数の場合

.ini ファイルを使用して複数のシステムをアップデートする方法の詳細については、『Deployment Toolkit ユーザーズガイド』を参照してください。

その他必要な知識

仮想ディスクを作成する場合

- 1 (最大仮想ディスク容量の作成を選択する オプションを使用せずに)サイズを指定して仮想ディスクを作成すると、作成する次の仮想ディスクは、選択したコントローラとアレイディスクにバインドされます。この条件は、アレイディスクに空き容量がなくなるまで有効です。
- 1 削除する仮想ディスクを選択し、その仮想ディスクが特定のアレイディスクを使用して作成された仮想ディスクの 1 つである場合、そのアレイディスクに作成されたすべての仮想ディスクが削除の対象として選択されます。

USB キーを作成先として使用する場合

- 1 USB キーを ini ファイルの作成先として使用する場合、プロンプトで USB キーを挿入します。

 **メモ:** システムに USB キーを挿入した状態でシステムを Systems Build and Update Utility に起動しないことをお勧めします。これは、Systems Build and Update Utility が、このユーティリティを起動する前にすでに挿入されていた USB キーを検出しない可能性があるためです。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Content Manager

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

- [Content Manager へのアクセス方法](#)
- [Content Manager を使用して Server Update Utility アプリケーションを取得する方法](#)
- [Content Manager を使用してネットワーク共有上にカスタマイズされたりポジトリを作成する方法](#)
- [リポジトリのアップデートを調べる利点](#)
- [その他必要な知識](#)

Content Manager は、以下を実行できる Dell™ Systems Build and Update Utility のツールです。

- 1 最新の Server Update Utility ISO イメージをデルのサイト ftp.dell.com からダウンロードする。
- 1 『Dell Server Updates DVD』またはデルのウェブサイトからカスタマイズされたりポジトリを作成する。
- 1 カスタマイズされたりポジトリをローカルまたは共有の場所に保存し、後でプレオペレーティングシステム環境またはポストオペレーティングシステム環境でのシステムハードウェアアップデートに使用する。
- 1 ローカルまたはカスタマイズされたりポジトリを ftp.dell.com で Dell オンラインリポジトリと比較し、最新アップデートを調べる。

Content Manager へのアクセス方法

- 1 システムが対応する Microsoft® Windows® オペレーティングシステムを実行している場合は、以下の手順を実行してください。
 - 1 『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』を挿入すると、自動実行 GUI が表示されます。Content Manager オプションを選択します。
- 1 システムが対応する Linux オペレーティングシステムを実行している場合は、以下の手順を実行してください。
 - 1 『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』から、`/contentmanager/lin/lincontent.tar` に移動します。`lincontent.tar` ファイルを目的の場所に解凍し、`./contentmanager` スクリプトを実行して、この場所から `contentmanager` アプリケーションを起動します。
対応する Linux オペレーティングシステムで初めて Content Manager を実行する場合は、`lincontent.tar` の解凍先の `/rpms` フォルダにある `cabextract-1.2-1.1386.rpm` を実行する必要があります。

 **メモ:** Content Manager は、SUSE® Linux Enterprise Server バージョン 9 オペレーティングシステムでは実行されません。

 **メモ:** 特定の Content Manager 画面の詳細については、Dell Systems Build and Update Utility のオンラインヘルプを参照してください。

Content Manager を使用して Server Update Utility アプリケーションを取得する方法

- 1 **実行する操作の選択** 画面で、Server Update Utility ISO イメージのダウンロードを選択し、次の画面に進みます。
Content Manager を使用すると、ISO イメージをダウンロードして目的の場所に保存できます。
- 2 CD/DVD 作成ソフトウェアを使って、イメージを CD/DVD に焼き付けます。
- 3 ファームウェアやドライバをアップデートするシステムに CD/DVD を挿入します。
- 4 システムが Windows オペレーティングシステムを実行している場合は、CD/DVD が自動的に実行して Server Update Utility アプリケーションを起動します。
システムが Linux オペレーティングシステムを実行している場合は、CD/DVD から Server Update Utility アプリケーションを起動してください。たとえば、次のように入力します。

```
suu -g
```

Content Manager を使用してネットワーク共有上にカスタマイズされたりポジトリを作成する方法

- 1 目的のネットワークドライブを手動でマウントします。後で、Content Manager を使用してカスタマイズされたりポジトリを作成するとき、**作成先の選択** でこのネットワークドライブを指定します。
- 2 『Dell Server Updates DVD』がある場合は、**作成元の選択** から、作成元として DVD を選択して続行します。
DVD がない場合は、作成元として Dell [オンラインウェブサイト](#) を選択して続行します。
- 3 オペレーティングシステムおよびプラットフォームを選択し、ウィザードを完了してカスタマイズされたりポジトリを取得します。

リポジトリのアップデートを調べる利点

リポジトリアップデートを調べる 操作によって、ドライバやファームウェアアップデートに関する詳細レポートを取得できます。これは、お使いのシステムに必要なアップデートの評価に役立ちます。

その他必要な知識

Windows パッケージのみでカスタマイズされたりポジトリを作成する場合

- 1 Windows パッケージのみでカスタマイズされたりポジトリを作成する場合は、Dell Systems Build and Update Utility では、**ファームウェアアップデート** モジュールを使用してカスタマイズされたりポジトリでファームウェアをアップデートすることはできません。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

用語集

Dell™ Systems Build and Update Utility 1.0.3 クイックリファレンスガイド

BIOS

基本入出力システム(Basic Input/Output System)の頭字語。システムの BIOS には、フラッシュメモリチップに保存されるプログラムが含まれます。BIOS は以下を制御します。

- 1 マイクロプロセッサと、キーボードやビデオアダプタなどの周辺機器デバイス間の通信
- 1 システムメッセージなどのその他の機能

BMC

DRAC と管理下システムの組み込み System Management (ESM)間のコントローラインタフェースであるベースボード管理コントローラ(Baseboard Management Controller)の略語。

DRAC

Dell™ Remote Access Controller(DRAC)は、オペレーティングシステムの状態に関わらずユーザーがシステムをリモートでアクセス、監視、トラブルシュート、修復、アップグレードできる System Management ツールです。

DTK

Dell OpenManage™ Deployment Toolkit(DTK)は、Dell PowerEdge™ システムを設定および導入するユーティリティ形式です。DTK は、現行の導入プロセスを著しく変化させることなく多数のシステムを確実に導入するために、スクリプトインストールの作成が必要な顧客向けに設計されています。

ESM

組み込み System Management(Embedded Systems Management)の略語で、システムのハードウェアの問題についてユーザーに通知するシステムソフトウェアおよびファームウェアの命令コード形式。

インベントリ

インベントリは、BIOS のバージョン、ファームウェア、システムにインストールされているドライバなど、コンポーネントのリストです。

NIC

ネットワークインタフェースカード(Network Interface Card)の略語。NIC は、ネットワークへの物理接続を提供するコンピュータにインストールされているアダプタ回路基板です。

USB

ユニバーサルシリアルバス(Universal Serial Bus)の略語。USB コネクタは、マウス、キーボード、プリンタ、コンピュータスピーカーなど複数の USB 準拠デバイスの単一の接続点となります。また、USB デバイスはシステムの実行中も接続や切断ができます。

ユーティリティパーティション

ハードウェアとソフトウェアにユーティリティや診断を提供するハードドライブ上のブータブルパーティション。アクティブにすると、パーティションが起動し、パーティションのユーティリティに実行可能な環境を提供します。

Windows プレインストール環境(Windows PE)

Microsoft Windows プレインストール環境(Windows PE)は、プロテクトモードで実行される Windows カーネルに基づく限られたサービスを搭載した最小限の Win32 サブシステムです。Windows セットアップの実行、ネットワーク共有からのオペレーティングシステムのインストール、基本プロセスの自動化、およびハードウェア検証の実行に必要な最小限の機能が含まれています。

[目次ページに戻る](#)